

日時	平成 28 年 1 月 6 日 10:00～13:30
派遣先	千葉県立佐倉高等学校
活動内容 生徒数:40 名 教員 : 8 名	<p>留学生 3 人と日本人学生 3 人で佐倉高校に向かった。</p> <p>9:40 佐倉高校に到着。 事務室の前にて、村瀬先生にお会いした。応接室にて本日の流れを聞き、その後、教室へと案内していただいた。</p> <p>10:00 2 階の教室にて、2 グループの PowerPoint によるプレゼンテーションを聞いた。 1 グループ目は、アルミニウムでアクセサリーを作るという目的の元、陽極酸化させたアルミニウムの耐久性について発表をしていた。留学生は、主に文法やプレゼンテーションの方法についてアドバイスをしていた。 2 グループ目は、紙飛行機の飛距離に関してプレゼンテーションを行っていた。重心の位置や羽の幅を変える等、様々な手段を用いて、段階的に実験を行ってきたようであった。留学生は、行われた実験の証明の過程や信頼度の低さについて指摘していた。高校生は、今ある自分の英語力で、指摘に対する反論やさらなる説明を加えていた。中身のある質疑応答の時間となった。</p> <p>11:00 物理部、生物/数学部、化学部に分かれてポスタープレゼンテーションを行った。全グループが発表するため、生徒は 1 階(化学部)、2 階(生物/数学部)、3 階(物理部)に分かれる形をとった。留学生も 1 階、2 階、3 階に分かれてプレゼンテーションを聞いた。留学生は、個々のプレゼンテーションをじっくりと聞き、質問、助言等をしていた。高校生は、指摘された部分があれば、メモをとり改善に努めていた。</p> <p>13:30 すべてのプログラムが終了し、3 人の先生方に事務室入り口まで送っていただいた。</p> <p>今回のプログラムでは、留学生、高校生ともに積極的にプログラムに参加していた。留学生の質問内容を高校生が 1 回で理解できなくても、高校生は日本語を介さずに一生懸命内容をくみとろうとしていた。高校生の間でも、内容がわからない生徒にヒントを与えたり、協力して意味を理解しようとしたり、有意義なコミュニケーション活動が見られた。このプログラムにおいて、言語の本質を見た気がした。また、留学生自身も、高校性のプレゼンテーションを聞いたことで、新たな視点や学びを得ていたようだ。双方が学びの得られる時間となった。</p> <p>高校側は、プレゼンテーション内容に専門性のある留学生も必要としているように感じた。もし可能なら、事前に留学生の得意分野を把握しておくとも良いかもしれない。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div>
派遣先教員 コメント	留学生の質問に対して、生徒は諦めず英語で答えようとしている姿に感動した。このプログラムに参加し、英語を使って自分たちの学びを伝えることで、生徒は自分たちの専門性と言語力、どちらに対しても自信を得ているような気がする。
留学生 コメント	It seemed that the students had prepared so much for the program. I could feel they had spent much time on their research and presentation. I learned a lot from them through their presentation.
学生リーダー コメント	英語が得意な生徒も苦手な生徒も、今ある英語力を最大限に使い、自分の言いたいことを伝えていた。自分の英語が相手に伝わったとき、それは大きな喜びと達成感につながる。この積み重ねが、自然に英語学習に対して積極的な姿勢を育成していくのかもしれないと感じた。このような機会をもっと多くの高校で提供できれば良いと感じた。